檜山教育局による地学協働活動推進のための広報

ひとづくり　や　まちづくり

ひやまをつなごう

第16号　令和5年(2023年)12月

●発　行:北海道教育庁檜山教育局
●担　当:教育支援課社会教育指導班
●電　話:0139-52-6525(直通)
●メール:hiyakyo.seigaku1@pref.hokkaido.lg.jp

1　防災に関する研修が行われました。

令和５年度（2023 年度）被災地域の学校支援に関する研修会

令和 5 年 7 月 27 日（木）、大規模災害が発生した場合の体制づくりや、学校の早期再開に向けた対応について理解を深めることを目的に標記研修会が行われ、檜山管内の教職員や檜山教育局職員が参加しました。

研修会では、日本赤十字北海道看護大学教授の根元昌宏氏が、「地域と学校の連携・協働による、寒冷期を踏まえた災害への備えと発災時の対応について」と題し講義を行いました。避難所における段ボールベッドの効果や避難所で発生しやすい疾患について説明し、冬の寒さが厳しい北海道の避難所では、TKB＋W（右図参照）が大事であると話されました。2016 年に発生した熊本地震では、災害関連死（災害後に起こるストレスや病気が原因のもの）が死者の死因の 8 割を超えているなど災害時の環境整備の重要さについて理解を深めることができました。

災害関連疾患を防ぐ TKB+W
T（トイレ）…衛生環境の整備
K（キッチン）…健康維持
B（ベッド）…就寝環境の整備
W（ウォーム）…暖房

【「Do はぐ」体験の様子】

その後は北海道版避難所運営ゲーム「Do はぐ」を体験しました。「Do はぐ」は、学校を避難所と想定し、続々と集まる避難者の置かれている状況（家族構成やけがの有無、車の有無）や、刻一刻と変わる天候などを考慮した避難所の運営体験を行うゲームです。参加者は、平常時から地域と連携した訓練を行うこと、学校や地域が協働して避難所を運営できる関係づくりが大事であるなどについて意見交流を行いました。

北海道版避難所運営ゲーム「Do はぐ」は、学校や町教育委員会への貸出も行っていますので、興味がある際には檜山教育局までご連絡ください。

2　第１回放課後活動推進協議会（道南会場）を行いました。

令和 5 年 7 月 14 日（金）、放課後や休日などにおける子どもの活動拠点づくりに関わる方々を対象に、令和 5 年度第 1 回放課後活動推進協議会を開催しました。子どもへの活動支援の在り方についての講義や演習をとおして、放課後活動を支える方々の資質向上を図ることを目的とした会であり、全道からおよそ 130 名の参加がありました。

講義・情報交流では、北海道立特別支援教育センター教育課聴覚言語障害教育室長深町友祐氏が「障がいのある子どもをもつ保護者との関わり方について」と題し、保護者の心情に寄り添った対応や連携のポイントについて講義を行いました。子どもの良さに目を向け、保護者のかかわりをほめるなど具体の対応についてお話しいただきました。また、ネガティブな言葉をポジティブな言葉に変換して言葉がけをするリフレーミングの演習を行った後、グループに分かれての情報交流で、具体的事例をもとにした保護者への望ましい対応について協議を行うなど、交流を深めることができました。

続いて行った演習では、北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森の社会教育主事吉田修介氏が「野外活動におけるリスクマネジメント」と題し、危険な箇所の判断の基準や対処法について説明しました。参加者は、ネイパル森の写真を見ながら、危険が潜む場所がないかについて考えるなどグループで意見交換をしたことにより、子どもたちが安全に楽しめるための具体的な視点についての理解を深めることができました。

【写真の中に潜むリスクを見つけよう】

参加者からは、「講義のほかに演習や情報交流の場が設けられていたことで、現場の様々な声を伺うことができ刺激になりました。」「リスクマネジメントの演習は複数の視点で見て共通理解を深めることが大切だと改めて考えさせられました」などの感想が寄せられました。

3　上ノ国町 地域・学校 Win-Win-Win プロジェクトの取組

「マチ×ヒト　協働みらい会議」

令和５年８月 23 日（水）、上ノ国高校が総合的な探究の時間で「マチ×ヒト 協働みらい会議」を行い、1 年生 18 名と町民７名が参加しました。

生徒が町民との協議を通して多角的な視点をもつことを目的に、「上ノ国町をよりよい町にするには何が必要か」というテーマで４グループに分かれ、それぞれの意見を交流しました。生徒からは、「上ノ国町は夕日がきれいな町だから、夕日をインスタで紹介して観光客を増やす取組をしてはどうか」「防犯のために、高校生が町内の防犯マップを作成し、町民とともに確認し合ってはどうか」など高校生ならではの意見が出たほか、参加した町民からも、「高校生と一緒に町の未来について考えることは非常に大切なことと感じた。」との声があるなど、充実した会議となりました。

【活発な意見交流になりました】

地域コーディネーターに係る講演会

令和５年９月７日（木）、上ノ国高校において教職員、地域探究学習に関わる方を対象に講演会を行いました。講演会では、元上士幌町教育委員会生涯学習課地域協働専門員の明石穂乃香氏と、北海道上士幌高等学校卒業生の齊藤香暖氏を講師として招き、探究的な学びに対する理解を深め、地域と学校がそれぞれの立場で「自分事」として取り組む意識の向上について講演いただきました。

明石氏からは、地域と学校が関わりを強めることは、子どもたちの成長や人生の選択肢を増やすだけでなく、入学者数やボランティアへの参加数の増加にもつながることについてのお話がありました。齊藤氏からは、地元企業や生産者と協力して開催したイベントを通して、子どもと高校生の新たなつながりの創出につながったことなどについてお話がありました。講演後は、地域の方との関係性の作り方や学校と地域コーディネーターとの関わりについての質疑応答を行い、更に学びを深めていました。

◇ ◆ ◇ 檜山教育局からのお知らせ ◆ ◇ ◆

○　アンケートの協力について

「ひやまをつなごう」をより充実した内容とするため、アンケートにご協力ください。今号の感想などの他、皆様からの情報提供もこちらから入力できます。個人配信の登録者も募集しています！

情報提供・アンケート
個人配信登録はこちらから！

※ＱＲコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です